



大阪部会(第44回)

日 時: 2015年7月4日(土) 18:00~20:15

場 所: 同志社大学大阪サテライトキャンパス

【内容要旨】 第44回の大阪部会の出席者は10名。今回は、東京部会メンバーが2名参加した。

(1) まず、野間(同志社大学)から、経済教育ネットワークの最近の活動報告があり、札幌部会、名古屋部会、京都部会、東京部会の様子などが紹介された。

(2) 次に河原和之氏(立命館大学講師等)から、最新の「地理と経済の融合教材」が報告された。5月の大阪部会で紹介された「飛び地」、和歌山県北山町に続いて、関西の生活・経済にとって重要な琵琶湖を取り上げた教材が、日本経済教育センターの手助けで作成されつつある。水の供給源としての琵琶湖、唯一の有人島である沖島を中心に漁業資源が豊富な琵琶湖、栗東など企業進出や人口増加の著しい琵琶湖、の三点を知ることが教材の大きな柱である。最初のふたつの柱については「公共財」の観点や「効率と公正」「費用と便益」などがキーワードになりそうである。

まだ作成初期段階の教材であるため多くの意見が出され、全体として生徒が何を学び考える教材であるかという点、三つの柱を共通の視点でまとめられないかという点、などが問題にされた。また、経済の視点からは、琵琶湖水系の水利権の管理とその代償・負担、琵琶湖および沖島の漁獲高、琵琶湖周辺進出企業の経済効果や税金などが分かると、興味や理解が深まるとの意見が出された。

(3) 東京からの特別参加である升野伸子氏(筑波大学附属中学校)より、たこ焼き屋をモデルとした「生産のしくみと企業」単元の教材が紹介された。この教材は、たこ焼きの売上高、製造原価、アルバイト賃金、借金返済、利潤などを、数値例を計算しながら、生産と生産要素との関係をつかむことから始められる。その後、「考えてみよう」で生徒への問いかけを通して、公民のいくつかの分野に話を広げることができるように工夫されている。売り上げを増やすためのマーケティングや製品開発、そのためにかかるコスト、原材料費を節約したりアルバイト賃金を圧縮したりすることの是非、利潤の分配の仕方、金融の役割、などに関して問いかけ、考えさせるようになっている。

実践報告のあと、この授業に基づいて日本経済教育センターで作成された頒布用教材「たこ焼き屋ヤッキー」も紹介された。升野氏の授業実践の明確さや面白さに比べ、頒布用教材にはその意図が反映されておらず、根本から作り直す必要があるとの意見が多かった。

(4) 山本雅康氏(奈良学園中学校高等学校)から、2014年に大幅改訂された「国際収支統計」について、最新の高校教科書(現代社会、政治・経済)の記述をチェックした結果が報告された。もちろんほとんどの教科書で記述は変更されているが、定義が大きく変わった「金融収支」や「資本



移転収支」についての記述には、間違いがみられるといくつかの例が指摘された。

- (5) 西村理氏（同志社大学）から、野村総合研究所「NR I 学生小論文コンテスト 2015」の告知があった。テーマは「2030 年に向けて－「守るもの」、「壊すもの」、「創るもの」」であり、9 月まで募集されている。あわせて、金融広報中央委員会からの案内も紹介された。

（文責 野間敏克）

次回開催予定： 2015 年 9 月 26 日（土）、時間は 18:00～20:00、場所は未定。